

発達障害について（第二回）

～発達障害の大まかな分類と特徴～

大まかな分類と特徴

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

知的な障害を伴う
こともあります。

注意欠陥多動性障害

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害（LD）

- 「読む」「書く」「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

小中学生の6.5%に発達障害の可能性 4割は支援受けず

2012年12月5日 日本経済新聞

全国の公立小中学校の通常学級に在籍する児童生徒のうち、人とコミュニケーションがうまく取れないなどの発達障害の可能性のある小中学生が6.5%に上ることが5日、文部科学省の調査で分かった。推計で約60万人に上り、40人学級で1クラスにつき2、3人の割合になる。しかし4割弱の児童生徒は特別な支援を受けておらず、専門家は「支援策を話し合う校内委員会などが十分に機能していない」と指摘している。

調査は今年2～3月、東日本大震災の被害が大きかった岩手など3県を除く1200校を抽出して実施。約5万2千人の授業中や学校での行動を尋ね、報告をもとに同省が判定した。

調査方法が異なるため前回の2002年の調査とは単純比較できないが、発達障害の可能性のある児童生徒の割合は0.2ポイント増えた。男子は全体の9.3%、女子は3.6%だった。学年が上がるにつれて減り、小1は9.8%だったが、中3は3.2%だった。

「書く」「聞く」「計算する」など特定の分野の学習に困難を示す学習障害（LD）の可能性があるのは4.5%。注意力の欠如や衝動性などを特徴とする注意欠陥多動性障害（ADHD）とみられるのは3.1%で、知的発達に遅れのない高機能自閉症と判断されたのは1.1%だった。

自閉症とは？

- 自閉症は、次の3つの特徴をもつ障害で、3歳までには何らかの症状がみられます。
 - ① 対人関係の障害
 - ② コミュニケーションの障害
 - ③ 限定した常同的な興味、行動および活動

最近では、症状が軽くても自閉症と同質の障害のある場合、自閉症スペクトラムと呼ばれることがあります（スペクトラムとは「連続体」の意味）

アスペルガー症候群（障害）とは？

- 対人関係の障害があり、限定した常同的な興味、行動および活動をするという特徴は、自閉症と共通した障害です。アスペルガー症候群（Asperger syndrome）は、明らかな認知の発達、言語発達の遅れを伴いません。

「自閉症」と「アスペルガー症候群（障害）」（他には「広汎性発達障害」という診断もあります）は最近の医学的分類で、「自閉スペクトラム症」という言い方になっていますが、この研修では、「自閉症」と「アスペルガー症候群」の説明は分けて説明しています。

注意欠陥多動性障害（AD/HD）

- 注意欠陥多動性障害（AD／HD：Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder）は、ADHDと表記されることもあります。注意持続の欠如もしくは、その子どもの年齢や発達レベルに見合わない多動性や衝動性、あるいはその両方が特徴です。この3つの症状は通常7歳以前にあらわれます。
 1. 多動性（おしゃべりが止まらなかったり、待つことが苦手であらうろしてしまったりする）
 2. 注意力散漫（うっかりして同じ間違いを繰り返してしてしまうことがある）
 3. 衝動性（約束や決まり事を守れないことや、せっかちでいらいらしてしまうことがよくある）

一般的に多動や不注意といった様子が目立つのは学齢期ですが、思春期以降はこういった症状が目立たなくなるともいわれています。

学習障害（LD）の人の例

- 学習障害はLDと略されることもあり、Learning DisordersまたはLearning Disabilitiesの略語とされています。全般的な知的発達に遅れはないのに、読む、書く、計算するなどの特定の能力を学んだり、おこなったりすることに著しい困難がある状態をいいます。

トウレット症候群

- トウレット症候群（TS：Tourette's Syndrome）はTSと略されることもあります。多種類の運動チックと1つ以上の音声チックが1年以上にわたり続く重症なチック障害です。通常は幼児・児童・思春期に発症します。多くの場合は成人するまでに軽快する方向に向かうと言われています。

運動チック

突然に起こる素早い運動の繰り返しです。目をパチパチさせる、顔をクシャッとしかめる、首を振る、肩をすくめるなどが比較的よく見られ、時には全身をビクンとさせたり飛び跳ねたりすることもあります。

音声チックとは

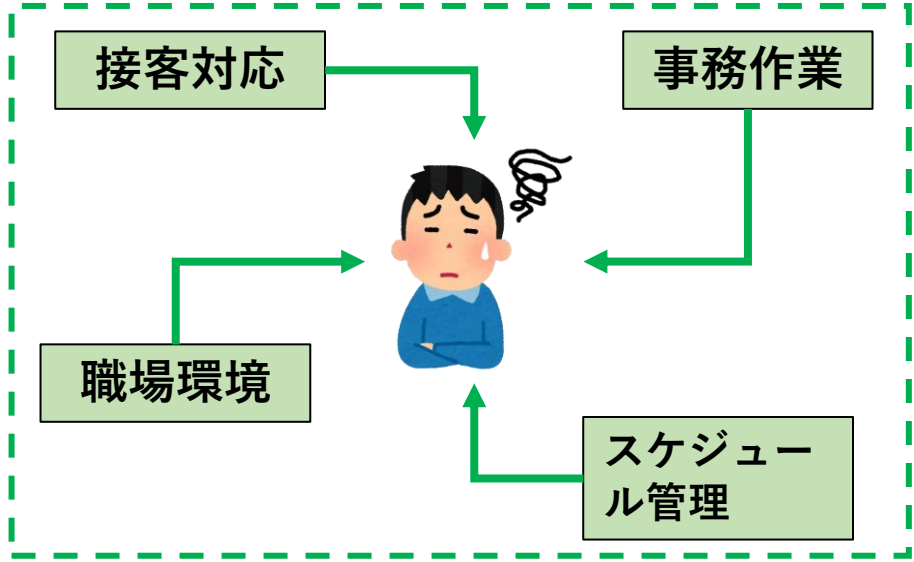
運動チックと同様の特徴を持つ発声です。コンコン咳をする、咳払い、鼻鳴らしなどが比較的よく見られ、時には奇声を発する、さらには不適切な言葉を口走る（汚言症：コプロラリア）こともあります。

※このような運動や発声を行いたいと思っているわけではないのに行ってしまうということがチックの特徴です。

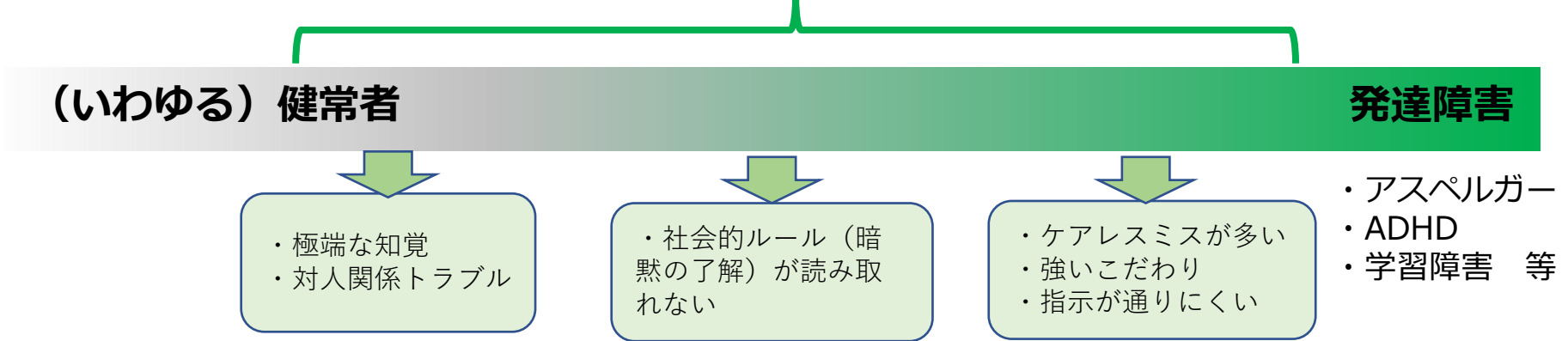
職場における発達障害

ドクター・トラスト「大人の発達障害と向き合う働きやすい職場づくり」資料から

なぜ、大人になって発達障害の症状が？
社会に出ると人間関係や職場の仕事の範囲が広がり、なおかつ複雑になることで、就労や社会適応が困難になり、発達障害に気づくことがある。



健常者と発達障害の線引きは難しい！
グレーゾーン・判断が難しいライン



発達障害は、医師がエピソードや心理テストなど通して診断するもの
素人の判断で決めつけることは危険。一人ひとりの個性、特性として対応する柔軟性が大切

凸凹（でこぼこ）が強い

- コミュニケーション力（お人柄）は抜群なので、嫌われ者にならない。チームの和を大事にするけど、ルーティンの事務や会計処理等が全くできない。
（分かっていたのに、放置・引き伸ばす）
- 強気で物事を進めて成果は上げるけど、強引で怒りっぽい。この人の下に人をつけると、高確率で退職するか、鬱になる。
- 真面目で、がんばり屋。手を抜かないけど、仕事の優先順位がつけられず、マルチタスク（仕事の同時進行）ができない。確認すると、業務に深刻な遅れが生じている。

得意

事務処理

業務遂行

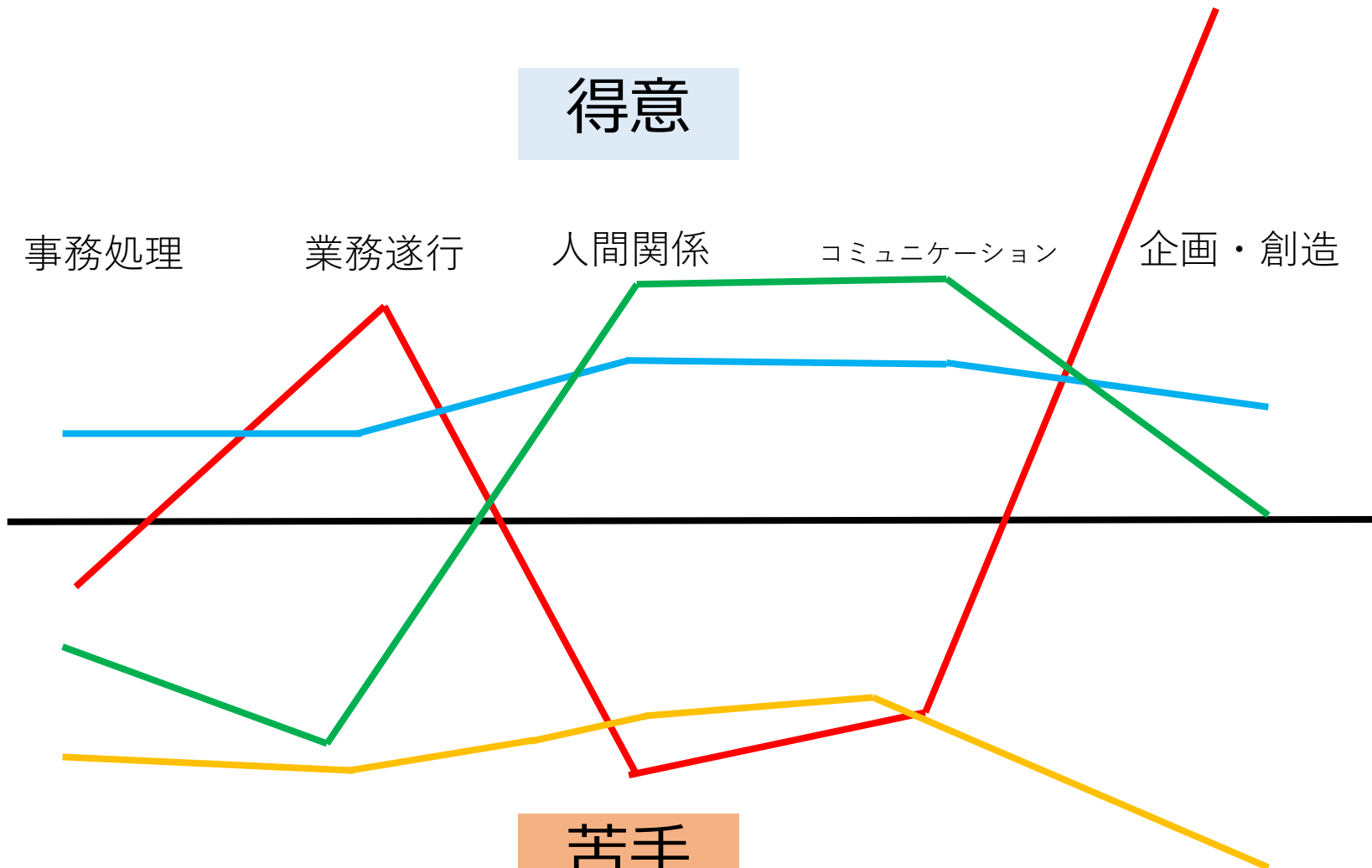
人間関係

コミュニケーション

企画・創造

平均

苦手



次回は・・・

- ・ 自閉症、アスペルガー症候群の特性について詳しく説明していきます。